

Quarterly Report

MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社
 広報・IR部 〒103-0028 東京都中央区八重洲 1-3-7
 TEL: 03-6202-5270(代表)
 www.ms-ad-hd.com



2011年7月22日

2011年度第1四半期（4月～6月）のトピックスをご案内します。

1. 2011年3月期 決算概況について

当社は、5月19日に平成23年3月期における決算発表を行いました。2010年度の正味収入保険料は、2兆5,414億円と前期比0.9%の増収となりました。要因として、三井住友海上において住友生命との提携が順調に進んでいることや、あいおいニッセイ同和損保において主力商品の自動車保険が増収したことが挙げられます。一方、東日本大震災の影響により国内損害保険会社の保険引受利益が減少したことに加え、経営統合に伴う一時的費用が発生したことなどから、当期純利益は前期比519億円の減益となりました。

(単位：億円)

	(参考) 3社合算値 平成22年3月	平成23年3月	比較増減	増減率
正味収入保険料	25,190	25,414	223	0.9%
経常利益	991	210	▲781	▲78.8%
当期純利益	573	54	▲519	▲90.5%

2. 2011年4～6月の三井住友海上、あいおいニッセイ同和損保の営業概況（単純合算）

*速報ベース、傷害・一般計には長期医療を含む

第1四半期は、主力の自動車保険を始め全種目で増収し、一般計で2.2%の増収となりました。

(金額単位：百万円)

種目名	第1四半期（4～6月）	
	収入保険料	増収率
自動車	312,049	0.3%
自賠責	73,523	6.2%
火災	98,174	5.9%
傷害	50,775	5.3%
新種	89,049	0.3%
海上	30,134	2.0%
一般計	653,706	2.2%

3. 主なニュースリリース（2011年4月～6月） ※カッコ内はニュースリリースの日付

(1) MS&ADホールディングス

○東日本大震災への義援金について（4月28日）

当社では、被災地・被災者の方々の支援を目的にグループ会社の社員から義援金を募り、最終的に9,000万円を超える義援金が集まりました。災害時義援金マッチングギフト制度による会社拠出分とあわせて、総額1億5,000万円を寄贈しました。また、各事業会社の海外現地法人・支店等からも義援金が寄せられ、別途、約3,225万円を寄贈しました。その他、Web約款の利用実績などに応じて、被災地へ寄付を行うなど、保険業を通じた復興支援活動にも取り組んでいます。

(2) グループ各社

①国内事業

○社名を「三井住友海上プライマリー生命保険株式会社」に変更（4月1日）

三井住友海上プライマリー生命は、4月1日付で当社の完全子会社となり、社名を「三井住友海上メットライフ生命保険株式会社」から「三井住友海上プライマリー生命保険株式会社」に変更しました。社名の“プライマリー（Primary）”には、「基本」に忠実な会社であり、常に「お客さま第一」「お客さま基点」という原点に立つ会社でありたいとの決意が込められています。

○損保業界初「スマートフォン専用 公式ホームページ」を開設（4月14日）

あいおいニッセイ同和損保は、スマートフォンの急速な普及を受け、損保業界で初めてスマートフォン専用公式ホームページを開設しました。PCと携帯で展開している公式ホームページのコンテンツをスマートフォン専用でデザインすることで、スマートフォンユーザーのお客さまに、より見やすく操作しやすい環境を提供します。

○新しい医療保険「一時払終身医療保険（低解約返戻金）」を発売（4月15日）

三井住友海上きらめき生命は、「一時払終身医療保険（低解約返戻金型）」の販売を開始しました。一生涯続く安心の入院・手術保障で医療費の支出に備えつつ、万一のときには一時払保険料相当額を死亡給付金としてお支払いすることで、「保障への備え」と「大切な資産を守る」というお客さまのニーズにお応えする商品です。

○変額個人年金保険の新商品を発売（4月16日）

三井住友海上プライマリー生命は、より豊かな生活を送りたいというお客さまのニーズにお応えするために、リスク管理型（RC）の変額個人年金保険の販売を開始しました。資産を「ふやすための“工夫”」として払込保険料を全額効果的に運用し、マーケット環境に応じて投資割合を機動的に見直すほか、積立期間と保証割合の異なるタイプを選択できる商品です。

○自動車保険の改定について（4月25日、5月30日）

三井ダイレクト損保は、2011年7月1日以降保険始期契約より、自動車保険の商品改定を行いました。近年の事故発生状況等を踏まえて保険料水準を見直すとともに、補償内容、割引制度等の見直しを行うことで自動車保険をこれまで以上にご安心いただける商品としました。また、三井住友海上は、10月1日始期契約から自動車保険を改定します。直近の収支状況を踏まえ、参考純率で採用されている「記名被保険者年令別料率区分」の導入などの保険料改定を行います。同時に、お客さまが納得感のある契約条件へ見直すことができるよう、「補償の選択肢」を拡大するなどの補償の改定も行います。そのほか、事故や保険についてお客さまのお役に立つ周辺情報などを提供するコミュニケーションツールを拡充します。

○あいおいニッセイ同和損保とアドリック損害保険の合併について（5月25日）

あいおいニッセイ同和損保とアドリック損害保険は、金融庁より合併の認可を取得し、2011年6月1日付で合併しました。

商号：あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

本店所在地：東京都渋谷区恵比寿1-28-1

○『MUJICOLOGY!プロジェクト』を開始（5月30日）

三井ダイレクト損保は「事故のないクルマ社会を目指す」活動として、『MUJICOLOGY!プロジェクト』を開始しました。第一弾として、『MUJICOLOGY!研究所』を同社オフィシャルサイト上に立ち上げ、著名人との対談インタビューや安全運転に関するクイズなど、様々なコンテンツを提供しています。

○「AR（拡張現実）」技術を活用した iPhone 向け専用アプリの開発および商品プロモーションを開始（6月14日）

あいおいニッセイ同和損保は、新たな商品プロモーション策の一環として、株式会社ジェイアイズと共同で、iPhone 向けに「AR」専用アプリ（無料）を開発しました。「AR」とはパンフレット等に掲載されている特定の対象物をスマートフォンで撮影することで動画が再生され、お客さまに新たな情報を付加・提示することが出来る技術です。遊び心あるアプリを活用し、お客さまとの接点強化を図ることによって、より親しみやすい保険会社を目指します。

②海外事業

○インドネシアにおける大手生命保険会社との戦略的資本提携について（5月2日）

三井住友海上は、インドネシア最大手の企業グループであるシナールマス・グループ傘下のシナールマス生命 (PT Asuransi Jiwa Sinarumas、以下シナールマス生命) と戦略的資本提携を行うことで合意しました。同社が行う第三者割当増資を引き受け、出資比率50%のパートナーとしてインドネシアにおける生命保険事業に進出しました。

○マフレ社との戦略的提携について（5月24日）

三井住友海上は、スペインおよび中南米最大の保険会社マフレ (MAPFRE S. A、以下マフレ社) と、保険事業の包括提携に基本合意しました。同社とマフレ社は既にメキシコ、スペインにおいて提携関係にありますが、ネットワークの相互活用による販売・リスクコンサルティングや、再保険などの幅広い分野において包括提携し、成長市場での競争力・サービス力の強化を図るものです。特に同社にとっては、今後大きな成長が見込まれる南米地域において、事業基盤の大幅な強化・拡大が実現することとなります。

③環境・社会貢献活動

○早稲田大学商学部に寄附講座を開講（5月11日）

あいおいニッセイ同和損保とMS&AD基礎研究所は、5月12日から早稲田大学商学部において、「新時代の保険事業～グローバルスタンダードと少子高齢社会を迎えて～」をテーマに、寄附講座を開講しました。本寄附講座は2007年から開講し、今回で5年目になります。

○東日本大震災の復興支援【たすけ愛・ささえ愛プロジェクト】を開始（6月6日）

あいおいニッセイ同和損保は、被災地域の復興支援取り組みを中期的・継続的に行うことを目的に、同社で展開している地域AD倶楽部と連動した活動「たすけ愛・ささえ愛プロジェクト」を開始しました。社内で集まったベルマークを被災地の学校に寄贈することで教育環境整備に役立てるほか、被災地域の農産物を販売する物産展を開催するなど、東日本大震災の復興支援に努めていきます。

○「エコ・レボリューション運動」を開始（6月28日）

あいおいニッセイ同和損保は、生産性の向上を迫及する「エコ・レボリューション運動」を開始しました。全ての業務・行動をお客さま第一の視点で見直し、スピード感のある仕事のやり方を目指すなど、従来の常識にはとらわれない「より生産性の高い仕事のやり方、取り組み方、風土づくり」に全職場で取り組んでいきます。